

2015年度 事業報告

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2015年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	102	(102)
団体正会員 (1口1万円)	20	(17)
特別正会員 (5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (1口2千円)	94	(95)
団体賛助会員 (1口1万円)	1	(1)
特別賛助会員 (3万円以上)	2	(2)
企業賛助会員 (1口10万円)	1	(1)

2 会議の開催の状況

2015年

- 4月19日 理事会 (東京・雑司が谷地域文化創造館 第1会議室)
- 6月27日 理事会 (東京・巣鴨地域文化創造館 多目的ホール)
- 6月27日 総会 (同上)

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2015年

- 4月12日 シギ・チドリ類支援グループ会合
- 7月20日 シギ・チドリ類支援グループ会合
- 10月23～24日 モニタリングサイト1000交流会 (金沢市) に柏木が参加
- 12月21日 EAAF (東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ) 国内連絡会に柏木が参加

(2) 保全再生事業

2015年

- 4月9日 第43回水田決議円卓会議準備会開催
- 5月11日 第44回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月6日 第45回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月28日 安全保障関連法案 (安保法案) に反対する環境NGO共同声明
- 8月20日 田んぼ10年だより第3号発行
- 8月31日 第46回水田決議円卓会議準備会開催
- 10月5日 第47回水田決議円卓会議準備会開催
- 11月11日 第48回水田決議円卓会議準備会開催
- 11月29日 【緊急シンポジウム】 救え! 沖縄・泡瀬干潟 を日本自然保護協会、泡瀬干潟を守る連絡会と主催

- 1 1月30日 四国横断自動車道吉野川渡河部建設に関して国交省に要請
- 1 2月1日 田んぼ10年だより第4号発行

2016年

- 1月18日 第49回水田決議円卓会議準備会開催
- 3月1日 第50回水田決議円卓会議準備会開催
- 3月5日 田んぼ10年だより第5号発行

(3) 普及啓発事業

2015年

- 5月22日を中心とする4～6月 湿地のグリーンウェイブ
- 12月10～12日 エコプロダクツ展2015「生物多様性ナレッジスクエア」(東京ビッグサイト)に出展
- 5月16～17日 エコトーン・プロジェクト サイト・ビジット (中池見・三方五湖)

2016年

- 1月22日～23日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会・琵琶湖
- 2月13～14日 エコトーン・プロジェクト サイト・ビジット (蕪栗沼等)
- 2月20～21日 にゅじゅうまるCOP2 (名古屋市)
- 2月27日 生きものあふれる田んぼと地域づくりシンポジウム・豊後大野市
- 3月13日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会・東京秋葉原

(4) 国際協力事業

2015年

- 4月2日 WWNスカイプ会議
- 6月2日 WWN主催
ラムサールCOP12 (ウルグアイ/プンタデルエステ) プレCOP会議
- 6月2日～9日 ラムサールCOP12 (ウルグアイ/プンタデルエステ) 参加
- 6月3日 WWN サイドイベント「ラムサールにおけるNGOの貢献—アンケート分析結果発表」
- 6月4～6、8、9日 WWN NGO 打合せ
- 6月8日 サイドイベント「水田決議その後」(ラムネットJ、環境省、農水省共催)
- 6月19日 WWNスカイプ会議
- 9月23日 WWNスカイプ会議

(5) ネットワーク推進事業

2015年

- 7月27日 ラムネットJニュースレター第20号発行
- 11月1日 ラムネットJニュースレター第21号発行

2016年

- 1月15日 ラムネットJニュースレター第22号発行

4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金 田んぼ10年プロジェクト（ラムサールCOP12含む）
2014年4月～2015年3月 3,926,000円

2015年度事業報告（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

シギ・チドリ類支援グループ会合（福岡市まもる一む福岡）（立上げ4/12：高野、服部、柏木、7/20：花輪、柏木）。ふくおか湿地保全研究会主催の講演会でヘラシギの現状について発表（服部、柏木）。経団連自然保護基金に助成申請。4月にシギ・チドリ類支援のためのアンブレラグループを Shorebird Stepping Stones として立ち上げることはできたが、メーリングリスト等の効率的運用ができず、実質的には準備活動で終わった。2016年度にはシギ・チドリ部会として、積極的に推進できるようにしたい。

●モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査検討委員会・交流会（金沢市）（10/23、24：柏木）。

●EAAF パートナーシップ国内連絡会（12/21：柏木）

(2) 保全・再生事業

●四国横断道路吉野川渡河部関係（井口、東京での行動にはラムネットJとして柏木も）

国土交通省四国事務所、本局、国会議員等との情報交換、要請等（NACS-J、WWF ジャパンと共同で）。工事着工にあたり、一つ上流のしらさぎ大橋並みのモニタリングと国交省からの環境に関する指導を要請。引き続き注視と働きかけを要する。

●中池見湿地・新幹線ルート関係（上野山、柏木）

シンポジウム「ラムサール条約湿地の守り方最前線」（10/12、NACS-J 主催）。鉄道運輸機構あて条約決議遵守の要望書を NACS-J、ウェットランド中池見、中池見ねっと、日本湿地ネットワーク、日本野鳥の会、WWF ジャパンと共同で準備（2016/4/8 提出）

●沖縄の生物多様性

泡瀬干潟を守る連絡会の取り組みや、沖縄県議会での嘉陽県議（共産）の質疑などで、泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録の動きが急速に進んだ。その成果を元に、2015年11月29日に、東京で、「緊急シンポジウム 救え！沖縄・泡瀬干潟～辺野古埋立ての一方で進行するもうひとつの自然破壊～」を開催し、翌日30日には、環境省に「泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録を進めること」を要請した。環

境省回答は、「将来的に実現できる方向に進めたい」であり、大きな前進であった。2016年2月12日には、環境省那覇事務所、沖縄市役所を訪問して登録促進を要請した。

また、翁長知事を先頭にした沖縄県民の辺野古埋立・新基地建設を許さない闘いが高揚する中で、ラムサール・ネットワーク日本としても、沖縄の環境破壊の諸問題に対する立場を表明するために「沖縄問題（特に辺野古新基地建設、泡瀬干潟等の埋立、高江ヘリパット建設など）に関するラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ」の検討を進め、理事会に提出してきた。

●田んぼ10年プロジェクト

参加者数が倍増し160個人・団体となった。水田部会（ラムネットJ）と水田決議円卓会議準備会議（ラムネットJ、農水、環境、国交省）を6週間に1回程度定期開催した。「田んぼ10年プロジェクト」を先進事例とし、国内及びアジア、アフリカ及び中南米のネットワーク化をめざし、ラムサールCOP12（6月、ウルグアイ）期間中に、公式サイドイベントを日本政府と共催し、アジア、アフリカ、中南米の関係者が参加し現状と課題を共有した。またブース展示も行き、各国の関係者との意見交換と情報収集を行った。日本国内では、地域交流会を2回（滋賀・京都、及び大分県）開催し、全国大会を東京で開催した。メーリングリストと「田んぼ10年だより」（3回発行）で、情報共有に努めた。国内外に向けて活動を発信する印刷物を刊行し、英語版は国際的な場で活用した。

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

全国の湿地を結んで湿地保全の大切さをアピールするという湿地のグリーンウェイブであるが、参加者が減少してきている。2016年は参加しやすいように締め切りを伸ばし、詳細未定のイベントも受け付け可能としたが、31件の参加という結果になった。関東以北の参加が少なくなっている。キーホルダーを作成して各地にプレゼントした。また、湿地のグリーンウェイブ参加団体もIUCN-Jのじゅうまるプロジェクトへの登録ができるようにした。12月、エコプロ展（国際展示場）で各地の活動紹介を出展した。

(4) 国際協力事業

●WWN（世界湿地ネットワーク）

スカイプ会議（4/2、6/19、9/23）。代表クリス・ロストロン氏が4月末で代表を退いたが、COP12はそれまでの準備をもとに、地域NGOとしての存在を示し、所期の成果を得ることができた。今後の方向性について模索中である。

●ラムサールCOP12（6月2～9日）

プレCOP12 NGO ミーティング（WWN・ラムネットJ共催、6/2）。WWN NGO 打合せ（6/4～6、8、9）。WWN サイドイベント「ラムサールにおけるNGOの貢献—アンケート分析結果発表」（6/4）。サイドイベント「水田決議その後」（ラムネットJ、環境省、農水省共催、6/8）。日本国際湿地保全連合主催「ラムサールCOP12報告会」で参加報告（6/25）。第13回ラムサール条約推進国内連絡会議（12/11）。日本湿地学会「湿地研究 Vol.6 No.1」2016年3月に報告「ラムサールCOP12 参加報告～ラムサール条約と地域NGO～」を投稿（柏木）。

●日韓湿地 NGO の連携

前年度 2015 年 2 月末の第 10 回日韓湿地 NGO フォーラムを受け、COP12 の機会を利用して 6/9 に日韓 NGO で今後の方針について協議した。第 11 回は日本において実施。時期は未定。連絡を継続とした。自然保護助成基金が 2 月末締め切りの新しい助成金の枠組みを発表、日韓フォーラムと WWN を組み合わせて助成を申請。

(5) エコトーン事業

2015 年度のエコトーン・プロジェクトは、一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）と共同実施して、EPC が HSBC から受けた寄付によって計 18 か所の湿地保全団体を支援し、5 月に中池見・三方五湖のサイトビジット、2 月に蕪栗沼等のサイトビジットを行い、HSBC 職員を現地に案内して、保全作業に従事してもらった。

(6) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2015 年度はニュースレターを 4 回発行した（20～23 号、但し 23 号は 4 月 1 日付け）。主な記事としては、「ラムサール条約 COP12（ウルグアイ）での活動報告」、「鬼怒川堤防決壊を教訓に流域治水への転換を」、「コウノトリ野生復帰の今、そして今後の展望」、「諫早湾開門をめぐる新たな動き」など。毎回、1500 部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、会員団体の機関誌への同封や各種イベントでの配布も行った。